

プッシュマスター HIVP変換ソケット(オス)

接続手順および注意事項

【接続手順】		【注意事項】
1 コネクターへの挿入	ソケットのプッシュマスター側差込部(下図参照)をプッシュマスターコネクターに差し込んで下さい。	本ソケットをプッシュマスターコネクター以外に接続しないで下さい。
2 マーキング	右記の最大差込代長さに合わせて、HIVP 側差込部に油性マーカーで半周以上マーキングして下さい。(マーキングは赤色を推奨します。)	最大差込代の長さは下記の通りです。 HIVP16A 用:30mm HIVP20A 用:35mm
3 差込代の確認	HIVP 継手にソケットを軽く挿入し、ソケットの止まる位置(ゼロポイント)が最大差込代より十分に小さいことを確認して下さい。	ゼロポイントの位置に異常がある場合は使用しないで下さい。
4 HIVP 継手接着剤塗布	接着面を清浄にして、接着剤を HIVP 継手の受口部内面に刷毛で薄く均一に塗付して下さい。	接着剤の付け過ぎには十分注意下さい。接着剤が継手内部の Oリングに付着しますと漏水の原因となります。
5 ソケット接着剤塗布	変換ソケット HIVP 側差込部外面にも 4.同様に接着剤を塗布して下さい。	接着剤は、差込代よりはみ出さないようご注意下さい。接着剤がコネクターに付着しないようご注意下さい。
6 ソケットの挿入	接着剤塗布後、すばやくソケットを差込代マーキング部まで挿入し、保持して下さい。	挿入後、すぐに力を抜くとパイプが戻るため、そのままの状態 で 30 秒以上保持して下さい。

【施工および保管上の注意】

- 本ソケットプッシュマスター側差込部へはプッシュマスターコネクター以外は差込まないで下さい。またアダプター継手やプッシュロックⅡ継手の差込、塩ビパイプ連結用途では使用しないで下さい。漏水の原因になる可能性があります。
- ソケットを接続した状態で過度な曲げ荷重を加えないで下さい。破損の危険性があります。
- コネクターサイズの選定は、配管径が先太りにならないようにして下さい。十分な流量が確保できない恐れがあります。
- ソケットは、ゼロポイントから HIVP 継手内部のストッパーまでの長さの1/3以上は挿入して下さい。パイプが入りにくい物、ストッパーまで簡単に入ってしまう物は使用しないで下さい。漏水の原因になる可能性があります。
- プッシュマスターコネクター及び HIVP 継手の挿入は必ず手で行なって下さい。継手が破損する恐れがあります。
- 接着剤は耐衝撃性硬質塩化ビニル用接着剤をご使用下さい。指定外の物を使用した場合はソケットの材質に悪影響を及ぼす恐れがあります。また接着剤の使用については、接着剤メーカーの取扱説明書に従って下さい。
- ソケットが1成分形シーリング材と接触すると可塑剤や非反応性高沸点希釈剤の成分により破損の恐れがあります。1成分形シーリング材を使用する場合は、シーリング材メーカーへお問合せ下さい。
- HIVP 継手を接着後、はみ出した接着剤は拭き取って下さい。また、接合部には力を加えることなく2時間以上養生して下さい。水圧がかかった際に HIVP 継手が外れてしまう恐れがあります。
- HIVP 継手を接着後、プッシュマスターコネクターにポリブテンパイプを挿入するまではコネクター内部にゴミが入らないように継手を養生して下さい。また養生の際にテープを使用する場合は、粘着材が残らない様に必ず除去して下さい。漏水の原因になる可能性があります。
- 接続後は水圧試験や気密試験等の確認試験を行い、漏水など異常がないことを確認して下さい。
- 本ソケットは給水用配管部材です。給水用途以外には絶対に使用しないで下さい。
- 本ソケットを屋外や車中で保管すると、直射日光や高温環境により、変形や寸法異常が発生する恐れがありますのでご注意下さい。
- 土中やコンクリートへの埋設をする場合は、継手部分の養生を行って下さい。直埋設は禁止です。
- アセトン、シンナー、クレオソート、殺虫剤、シロアリ防除剤などの有機化合物は、ソケットの材質に悪影響を及ぼす恐れがあります。吹き付けたり、塗ったりしないで下さい。尚、継手が浅く埋設されている場合、上記物質を地面にこぼすと、地中に浸透する事によってソケットが侵される場合があるので十分に注意して下さい。
- ソケットを切断して使用しないで下さい。漏水の原因になる可能性があります。
- プッシュマスター継手に接続するポリブテンパイプは、カットマークが印刷されている「ブリヂストンのポリブテンパイプ」をご使用下さい。
- ポリブテンパイプの接続作業については、プッシュマスター総合カタログの『パイプ接続手順及び注意』を必ずご確認下さい。

